

平成27年8月27日

武蔵野市議会議長 深沢達也殿

提出者 13番 笹岡ゆうこ

市政に関する一般通告書

9月2日開会の第3回武蔵野市議会定例会で、下記のことを市長に質問したいから通告する。

記

件名： 「子育てバリアフリー」の推進等について

1. 公共施設等の環境整備による子育てしやすいまちの推進について

- ① 平成25年3月に出された「武蔵野市公共施設再編に関する基本的な考え方」によると、‘基本的にはこれまでの50年が施設の量の充足に主眼を置いた「建設の50年」だったのに対し、これからの50年は量を縮減しつつ、市民生活を支える利便性の高い施設サービスを安定して提供していくために施設の見直しを図る「再編の50年」となる’とあります。

再編にあたっての課題について、市長の見解を伺います。

- ② 近年バリアフリーやユニバーサルデザイン等の意識が高まってきており、法や条例でも規定されていることから、それらに基づいての施設整備がされています。一方で、国土交通省は平成22年に『安心して子育てができる環境整備のあり方に関する調査研究報告書』をとりまとめ、‘妊婦や乳幼児連れの移動・施設利用等の環境整備は、衣食住に次ぐ重要性を有する’としています。

ユニバーサル社会の実現に向けての外出環境の整備・円滑化は「子育てバリアフリー」として推進すべき課題とされています。「子育てバリアフリー」推進にあたっての市の取り組みについて、現況を伺います。

- ③ 国土交通省では、バリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた個人又は団体を表彰する、バリアフリー化推進者表彰制度があります。第7回表彰式には「子育てしやすいまちナンバーワン」を目指し、「赤ちゃん・ふらっと」の設備を支援する事業に取り組んだとして八王子市が表彰されています。親子で安心して外出できる環境を整備するために都が要件を定めた「赤ちゃん・ふらっと」とは、授乳や調乳、オムツ替えができるスペースを指します。武蔵野市における「赤ちゃん・ふらっと」の進捗状況を伺います。また、八王子市のように独自の補助制度を創設し、官民協働で子育てしやすいバリアフリーのまちづくりについて武蔵野市も積極的に取り組んでほしいと考えますが、市長の見解を伺います。
- ④ バリアフリーやユニバーサルデザインに基づいたまちづくりが進む中、妊娠中や子育て中の声が少なく感じられます。平成18年にはバリアフリー新法施行も踏まえ、平成23年に武蔵野市バリアフリー基本構想が策定されました。平成27年はこの構想そのものの評価を行うとともに、特定事業者がこの構想に即して作成した特定事業計画の進捗状況の前期の評価・見直しを行う予定とあります。この特定事業計画評価・見直しにあたって実施される、武蔵野市バリアフリー事業計画実施推進委員会（仮称）・アンケート・ヒアリング等に妊産婦や子育て世代の意見も入れるべきだと思いますが、お考えを伺います。
- ⑤ 国土交通省では、基本構想の先進事例のひとつとして静岡県静岡市の基本構想概要が紹介されており、構想作成時に子育てサークル18団体による静岡市子育てサークル会合からの意見を反映しています。武蔵野市バリアフリー基本構想を再評価し、事業の進捗状況や社会情勢の変化を踏まえて見直し、次期改訂においては、委員会構成メンバー・アンケート・ヒアリング等の対象に妊産婦や子育て世代当事者の声を入れ、子育てバリアフリーを推進していただきたいと思いますが、お考えを伺います。
- ⑥ バリアフリー新法や東京都福祉のまちづくり条例に基づいて今後の公共施設改修がされる予定ですが、規定に基づく子育て支援環境の整備として、ベビーチェア・ベビーベッドの設置・授乳室の設置などを進めると共に、規定にないキッズコーナーや、ベビーカー置き場、給湯

器、軽食を取れる場所などの設置を積極的に検討していただきたいと考えますがお考えを伺います。

- ⑦ 公共施設再編検討の目的の1つに「新たな都市文化を創造する場の提供として、まちづくりの観点も踏まえ、将来にわたって多くの世代に利用される魅力と可能性を持った公共施設に再編し、市民が公共施設を活用することで新たな都市文化を創造していく」とあります。コミセンなど地域の拠点となる施設の改修において、現在利用率が低いと言われる子育て世代、働く世代の声も反映していただきたいと考えますがお考えを伺います。
- ⑧ 最近、駐輪場において子ども乗せ自転車の優先スペース「思いやりゾーン」などが増えてきており、子育て世代からも好評を得ています。市内駐輪場の現況を伺うとともに、子育てバリアフリー推進に向けて今後の広がりも期待し、見解を伺います。

2. 若い世代のコミセン利用について

- ① 市のコミュニティ政策は1970年代から始まり「武蔵野市方式」と言われるほど名高いものです。武蔵野市コミュニティ構想は、地域住民の「自主参加・自主企画・自主運営」を基本原則とし、開かれた地域社会システムとして住民委託管理方式により活動されてきた経緯があります。平成26年11月武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会も開催され、～未来を担う「これからのコミュニティ」を目指して～という提言がされました。今後の課題と構想を市長に伺います。とりわけ、子育て世代のコミセン参加についてどのようなお考えと方針をお持ちか伺います。
- ② 武蔵野市の子育て支援施設として0123の評判は高いのですが、0123を卒業した3歳以上の未就学児に対する居場所としての公共施設はどのようなものがあるのか伺います。また、0123や子育て支援施設以外での未就学児が遊びに行ける場所として、各地区にあるコミセンをもっと活用したいとの子育て世代の声が届きますが、お考えを伺います。
- ③ 現在0123などの子育て支援施設以外の公共施設における、親子が利用できる場所やイベント実施状況とその利用率はどのようになっている

か伺います。特に親子ひろばボランティアの現況と今後の展望、6月に行われたボランティア養成講座の反応と、告知はどのように行っているのか伺います。

- ④ 親子ひろばボランティアに応募し、地域の子育て仲間として意欲的な市民は新しい大切な社会資源です。このような人材を親子ひろば事業に限定せず、幅広く子育て支援事業に携わっていただけるような仕組みづくりが必要だと考えますが、見解を伺います。
- ⑤ 親子ひろば事業は、子育て期における地域貢献やキャリア形成の視点から子育て経験者のスキルを活かすものです。

ここに子育て経験者以外にも、新たな地域資源として武蔵野市に在学している大学生等の若い世代を視野に入れることを提案します。学生が子育て支援について考え、地域とつながり、地域の中で育ちあうことができればそれは大きな地域力となるからです。子育てを多様な主体で担い、子育て世代に優しく積極的なまち・武蔵野としての姿を打ち出していきたいと考えています。今後子育て支援に関わる市の募集や告知等を、大学の研究室や掲示板等に置かせてもらう等の周知を行うことも含め、ご見解を伺います。

以上

(080-5000-1260)